

2016年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	建築・デザイン演習Ⅱ						
科目区分	専門科目		単位数	3	開講時期	1年次	
必修・選択の別	必修科目						
担当者	小池 博・佐野正樹・森岡陽介						
授業の到達目標 (シラバスから)	・建築空間表現のための基礎的な能力を修得する。 ・建築空間の構想から設計までの問題発見と、スケッチ、図面、模型などの基礎的表現法を身に付ける。 ・自らの構想を表現手法をとおして展開していく基礎的な能力を修得する。						
日程と内容	第1回：導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、演習課題発表 演習課題01：建築・デザインのための表現手法を学ぶ その1 スケッチと寸法習作 第2回：演習課題01提出・演習課題02発表 演習課題02：建築・デザインのための表現手法を学ぶ その2 建築図面と模型の製作『配置図・平面図』 第3回：演習課題02：『断面図・立面図』 第4回：演習課題02：『アクソメ図』 第5回：演習課題02：『模型制作・模型写真撮影』 第6回：演習課題02提出 & プレゼンテーション 設計課題発表：自由設計課題『空間イメージ』の収集作業 第7回：設計課題：『空間イメージ・コンセプト』 第8回：設計課題：『スタディ模型 その1』 第9回：設計課題：『スタディ模型 その2』 第10回：設計課題：『平面図・断面図』のエスキス 第11回：中間発表 第12回：設計課題：『平面図・断面図』の作図 第13回：設計課題：『最終模型』の製作 第14回：設計課題：『模型写真撮影・アクソメ図』						
成績評価基準	定期試験			実技			
	臨時試験			部外評価			
	報告書・レポート			プレゼンテーション		10%	
	課題	70%					
	演習	20%		計		100%	
授業到達目標の達成度	履修登録者93名のうち、89名が合格し、合格率は96%であった。今年度は過年度履修生が4名(うち2名が不合格)しかおらず、毎年不合格となる学生の大半が過年度履修生であるため、高い合格率となった。1年生の不合格者は2名で、うち1名はすでに退学の手続きを取っているため、課題未提出で不合格となったものは1名だけである。合格者に関しては、成果物の完成度も全体的に良く、概ね目標は達成できた。						
反省点	本年度から演習課題02を「住吉の長屋」「スカイハウス」「塔の家」から自由に選ばせることにした。さらに、「スカイハウス」は2名で、「塔の家」は3名で行うこととした。「住吉の長屋」だけの昨年度までと比較して、バリエーションが増えたことにより単純に名建築に触れる機会が増えたこと、また、グループワークによる共同作業による教育的効果は認められたが、3つの課題の見本図面の精度がややそろっておらず、そのために学生への負荷が課題により違ってしまった。						
来年度の計画	演習課題02の課題の見本図面の精度をできるかぎりそろえることと、可能であれば毎年1つずつでも良いので、課題となる住宅を増やしていきたい。今年度課題の種類を増やしたことで、名建築の図面や模型を作成することが、空間設計をする上での影響の大きさがより実感できた。						
授業評価アンケートに対するコメント	極めて多くの学生から「説明がわかりやすかった」「丁寧だった」との評価を受けた。これは演習課題02の課題の種類を増やすことで3名の教員それぞれの役割分担がはっきりし、さらにほかの課題でも改めて話し合う時間が増えたことが影響していると思われる。一方で、「ルールがはっきりしなかった」「製図が難しかった」などのネガティブな評価も数は少ないが聞かれた。これは反省点でも述べたが、課題により見本の精度がちがいが、それが影響したものと思われる。あと、1名ではあるが教室のごみに触れていた学生がいた。特に学期末になると課題に追われ、製図室に泊まり込む学生も増え、散らかったままとなっている状態も見受けられた。この状態が続くようであれば、なんらかの措置が必要と思われる。						
履修登録者数	93 名	定期試験 受験者数	93 名	合格者数	89 名	合格率	96%